

2021年度 学校自己評価システムシート (秀明英光高等学校)

目指す学校像	常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする。
重点目標	1 保護者の教育信託に応える教育を行う。 2 生徒に学習の喜びを与え、確かな学力の定着を図る。 3 生活指導の徹底。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)		
年 度 目 標	年 度 目 標	年 度 目 標	年 度 目 標	年 度 目 標	年 度 目 標	年 度 目 標	年 度 目 標
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	教育理念を理解し、生徒が安心して学習できる学校づくりに専念している。一層徹底するための課題は次のとおりである。 ①授業の目的を理解させ、「秀明エリート」を育てる。 ②学校と家庭との「共育」「協育」を進める。 ③希望する進路が選択できるよう指導する。 ④感染防止対策を徹底する。	学習指導の充実と希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 「心の学習」を通して豊かな人間性を持った人物の育成を行う。 「武道」を必修とし、日本の伝統と礼儀作法を学ぶ。 保護者会を行い、学習面や生活面について十分な話し合いの場を設ける。 志望大学の過去問題演習を行って、学力の伸長を図る。 面接指導、小論文指導を学校全体で行う。 検温の実施や三密を避けマスクの着用、手洗いと消毒を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、授業公開、三者面談の状況。 「授業アンケート」結果の改善状況。 過去問題演習への取り組みと結果。 面接指導、小論文指導の結果。 進路実績。 学校活動での感染者の結果 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会(2回)、三者面談(2回)を実施し多数の参加があった。 A O、推薦入試に向けて面接・小論文対策を積極的に実施した。 希望する進路が決定するように努め、上級学校への進学率は90%であった。 感染症予防の対策を保護者にも周知を行い、信頼を得ている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年以上の参加を呼びかけ学校と家庭の「共育」「協育」を促進させる。 面接・小論文対策は組織的な計画を立て、引き続き全教員で実施する。 入試の動向を研究し「実力相応校」に満足せず、「目標校」「挑戦校」に合格するまで粘り強く指導する。 昨年度実施した方策を継続させる。
2	生徒に学習の喜びを与え、確かな学力の定着を図っている。一層徹底するための課題は次のとおりである。 ①到達度に応じた教科指導力を身につける。 ②週末課題の定着とノート学習の推進。 ③電子黒板やプロジェクターを用いて学力の向上を図る。	授業の改善と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「大学入試問題正解」を購入し、教科指導力を身につける。 授業アンケートを実施し、改善方法を考え実行する。 研修授業は、必ずテーマを明確にして行う。 毎週2回以上、他の教員の授業を見学し、その記録をもとに改善を図る。 主体的、対話的で深い学びを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> センター試験だけでなく「全国大学入試問題正解」の問題を掌握。 年間5回の授業アンケートを実施。 年間2回以上の研修授業を実施。 毎週、他の教員の授業を見学し、授業観察記録を作成し、改善点をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「大学入試問題正解」などを利用し指導教科の学力向上に努めた。 「授業アンケート」を5回実施し授業の改善に努めた。 研修授業を年間2回以上テーマを決めて実施し、指導力の向上に努めた。 年間50コマ以上の授業を見学し改善に役立てた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も「大学入試問題正解」などを利用し指導教科の学力向上に努める。 次年度も年間5回の授業アンケートを実施し、その結果をもとに授業の質を一層向上させる。 研修会での授業研究や参観を行い、授業方法の改善や技術を向上させる。
	多くの生徒を積極的に資格試験に挑戦させている。課題はより上位級を取得させることである。	資格試験	<ul style="list-style-type: none"> 英検は、朝のHRや放課後や週末課題等を活用して指導を強化している。 漢検は、学力を見極めた上で、多くの生徒に受検させる。 1年生でワープロ検定を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検、漢検への取り組みと取得状況の検証。 その他の資格試験への取り組みとその結果。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検では、99.0%の生徒が受検した。 漢検では、99.1%の生徒が受検した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も学年全体で組織的に対策を行い、最後まで粘り強く指導し合格させる。 数学検定や、ワープロ検定にも、多くの生徒が受検するよう学年集会、HRで促す。
3	学校生活をよりよくすることを目標に生活指導を行っている。課題は次のとおりである。 ①基本的な生活習慣の確立。 ②5つの約束の厳守。 ③「心の学習」の充実。 ④安全健康管理の徹底。	生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪、身だしなみの指導は、学年全体で行う。 いじめは、生活アンケートや面談の実施により、防止に努める。 親や先祖に対する謝念の心を育てる。 新聞記事を使い、「善と悪」「許せることと許せないこと」の区別、正しい判断力、思考力を身につける。 各種訓練の実施と定期的な安全点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪検査は月1回、身だしなみの指導は随時実施。 生活アンケート、面談の実施状況。 「心の学習」を通じて人間的成長を図る。 新聞記事の活用状況。 危機管理マニュアルに基づく各種訓練の実施。 サイバー犯罪防止、薬物乱用防止、非行防止等についてHRでの指導を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪検査は学年集会で実施、身だしなみ指導は、毎朝の登校指導から始まり、随時実施した。 「いじめゼロ宣言」を実践した。 担任との面談は週1回以上、生活アンケートは月に2回以上実施した。 各種訓練を実施した。HR単位での指導を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会での頭髪検査を継続し、身だしなみ同様、随時指導する。 「いじめゼロ宣言」の継続。 次年度も新聞記事を活用し、正しい判断力を身につけるようにする。 週1回以上の面談、月2回以上の生活アンケートを継続する。 学年集会を実施し、自らを守る姿勢と正しい判断力と思考力を養う。

学校関係者評価
実施日 2021年 4月 30日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、三者面談を定期的に行っている。 父母の信託と期待に応える教育のために、全教職員が心を一つにして努力している。 家庭との連携を取り、学校と保護者が共に育てる体制が整っている。 上位生徒だけでなく、下位生徒にもきめ細かな指導をしている。 「面倒見の良い学校」、「学力を伸ばす学校」として評価できる。 「一斉メールシステム」を活用し、学校と家庭の連絡・危機管理が取れている。
<ul style="list-style-type: none"> センター試験や過去の入試問題を解き、指導の研鑽に励んでいることが評価できる。 年間5回の授業アンケートが実施され、その結果に基づいて授業・指導が改善されている。 様々な教科の授業参観は、教科の枠を超えた指導の可能性を広げより良い授業と指導力アップに効果的である。 研修会での指導力向上のためのプログラムを実践した。
<ul style="list-style-type: none"> 資格試験に積極的に挑戦させている。 過去問対策や分野別の演習が徹底している。特に、教科を中心に 学年全体で組織的に指導している点も評価できる。(課題提示⇒提出⇒確認く助言)の流れができています。
<ul style="list-style-type: none"> 毎朝のあいさつ・身だしなみ指導は、学校全体で組織的に実施されており高く評価できる。 毎週の面談と毎月のアンケートによって、学習と生活上の問題の早期発見に努めてほしい。実施方法も検討してほしい。 「いじめゼロ宣言」「いじめ・暴力防止の誓い」を実践し、迅速な対応をしている。 危機管理マニュアルに基づいた各種訓練を継続させる。 サイバー犯罪防止、薬物乱用防止、非行防止、痴漢防止などの講演会を随時実施し充実している。